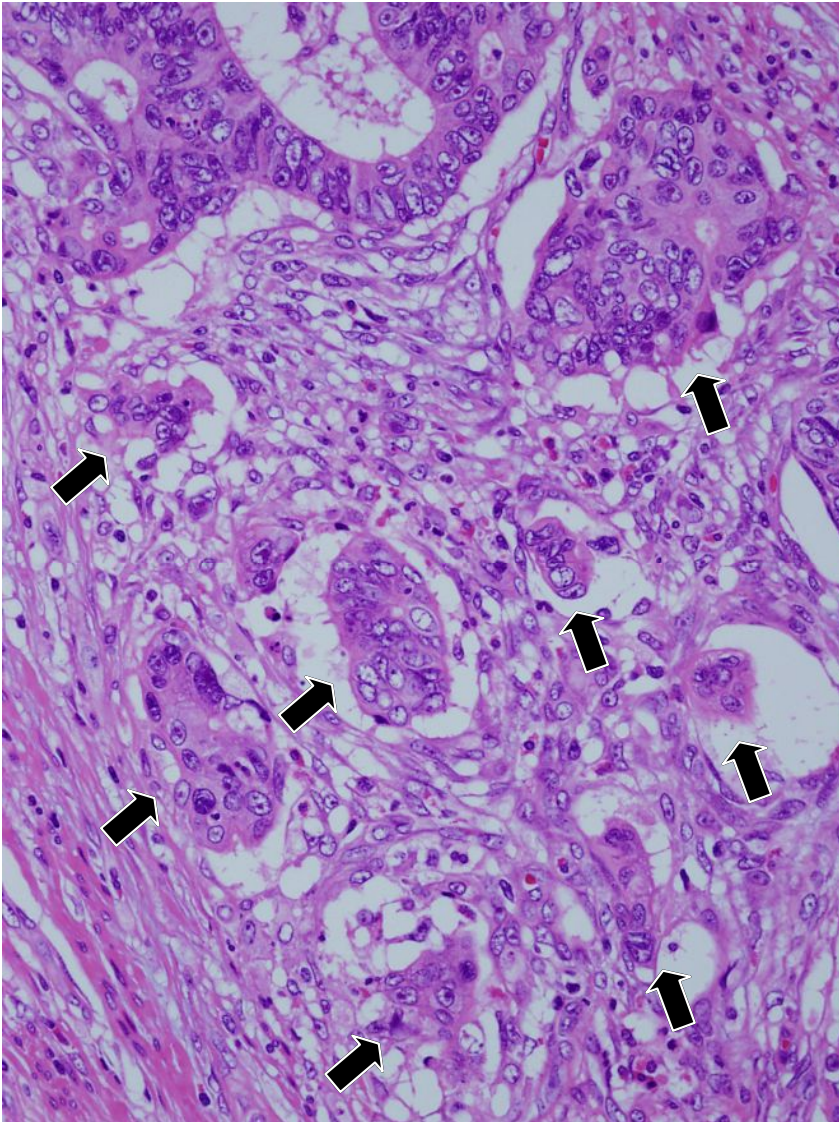
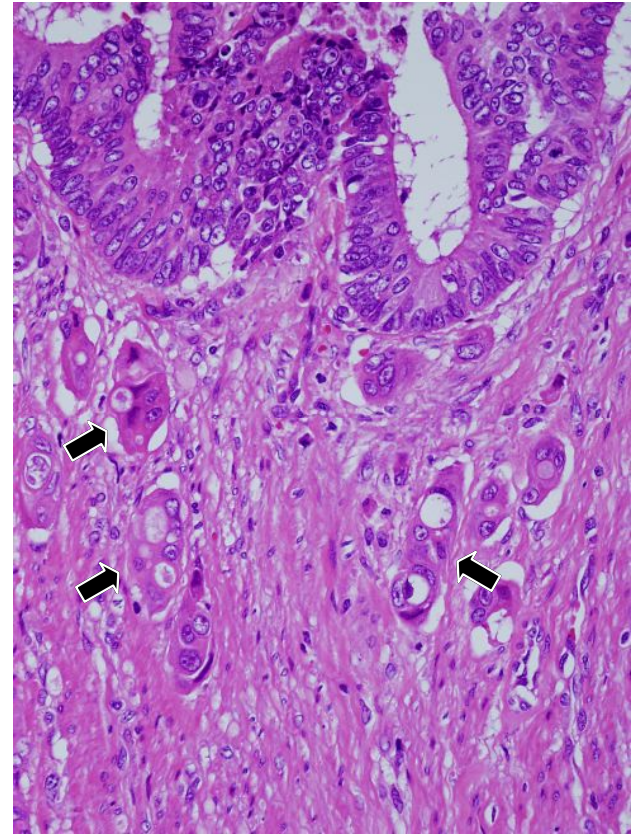


「低分化胞巢」の定義

間質浸潤を呈する癌胞巢の中で、5個以上の細胞から構成され、腺腔形成が乏しい癌胞巢(注1)。脈管内・外は考慮せず判定し、壊死変性や炎症細胞浸潤等により断片化した癌組織、“粘液湖”に浮遊する胞巢は「低分化胞巢」に含まない(注2)。

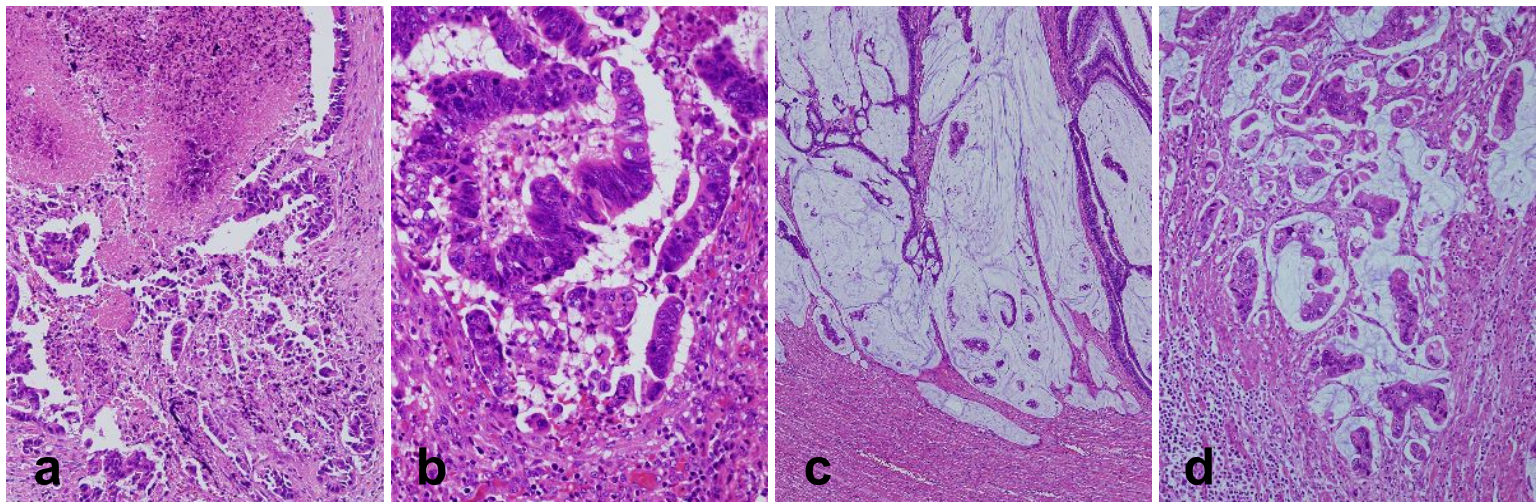


矢印：「低分化胞巢」(対物40倍)



(注1) “腺腔形成が乏しい癌胞巢”とは、腺腔形成が皆無か、細胞質内小腺腔 (intracytoplasmic lumina: ICL)などの微小な腺腔のみを有する癌胞巢である。明瞭な腺管を形成する胞巢は「低分化胞巢」に含めない。

矢印：細胞質内小腺腔(ICL)や、ICLと鑑別を要する細胞質内空胞や胞体内粘液を伴う「低分化胞巢」(対物40倍)



(注2) 壊死・変性(a;対物20倍)や炎症細胞浸潤(b;対物40倍)のために腺管が断片化した結果小塊状化した癌胞巢は「低分化胞巢」には含めない。一方、粘液産生腫瘍における「低分化胞巢」の判定に関して、大量の粘液(“粘液湖”)中に浮遊する癌胞巢(c;対物10倍)は「低分化胞巢」とせず、腺腔形成の乏しい癌胞巢が周囲に少量の粘液を伴いつつ間質浸潤するもの(d;対物20倍)は「低分化胞巢」とする。両者の分別は癌胞巢と細胞外粘液の面積的な比率を基準としておこない、癌胞巢を大きく凌駕することのない程度の粘液を伴う癌胞巢を「低分化胞巢」と評価する。